

医療法人社団もかほ会 武蔵村山さいとうクリニック (東京都武蔵村山市)

すべては患者さんのために日々の診療に情熱を注ぐ

～専門のない“ジェネラリスト”という専門医として～

東京都西部、武蔵村山市にある医療法人社団もかほ会武蔵村山さいとうクリニックでは「何でも診る」という方針を掲げて診療活動を行っている。同クリニックでは地域住民の期待に応えるため、出来る限りの努力を重ね、医療・介護・教育の専門職とのネットワーク作り、予防医学に重点を置いた活動など、様々な取り組みを行っている。理事長・院長の齊藤直人先生に同クリニック開設の経緯、理念、医療に対する想い、今後の展望などについてお話をうかがった。



齊藤直人

医療法人社団もかほ会  
武蔵村山さいとうクリニック  
理事長・院長

「何でも診る」という強い信念をもって

生まれ育った東京の北多摩で、地域に根ざしたジェネラルクリニックを2008年に立ち上げた齊藤先生は、法人理念として「何でも診る」と「すべての患者さんに対して『父であり、母であり、家族』だと思って接する」の2つを掲げている。

「患者さんの中には『先生の専門は何ですか?』と聞いてくる人もいます。私は医師として地域の人々の期待に応えるために、あらゆる症状の患者さんを診ていく覚悟をもって日々の診療にあたっています」と齊藤先生は話す。「そのためには必死に勉強していく覚悟が必要です。経験の少ない疾患の患者さんを診ることもありますが、出来る限りの準備をした上で、すべての患者さんに対して自分の家族だという気持ちで向き合っています」

齊藤先生がそうした信念をもつようになったのは、医師になってからのご自身の経験が大きく影響しているという。勤務医時代は外科のスペシャリストとして手術に追われる日々を過ごしていた。そんな時、肝臓がんで父を喪い、人の命を救いたくて外科医を志したにもかかわらず、スペシャリストでも治せない病気があることを痛感したという。

「懸命に努力を重ねて専門性を極めても、結局、父の命を救うことはできませんでした。その時に自分は“消化器外科医”である前に“外科医”であり、“外科医”である前に“医師”であり、あらゆる病気に対して治療を施す“ジェネラリスト”になるべきだと思い至ったのです。医

師の経験や実績は手術の回数ではなく、患者さんと直接触れ合い、患者さんの立場に立って親身に接することで得られる実体験こそが自分の目指す医療の真髄なのだと思うようになりました。つまり、専門のない、今の自分の診療スタイルこそが、自分の中の専門医なのです」と語る。

患者さんを自分の家族だと思って診療に当たる

患者さんと向き合う姿勢について齊藤先生は、「患者さんを診る際には、いつも『自分が、あるいは自分の家族がそうなったら自分はどうするか』と考えるようにしています。そうすれば、目の前の患者さんに正面から向き合うしかならないのです。手術や入院、またMRIを撮る必要があるなど、当院の設備で対応できない場合には、連携している立川市にある国立病院機構災害医療センターなどに患者さんを紹介します。しかし可能な限り、患者さんに『ここにきてよかった』と思ってもらうために、あらゆる病気に対して親身になって当院でできる限りの対応を行っています」と話す。

このような診療方針は当然自身の責任に跳ね返ってくるため、齊藤先生自身、常に努力を欠かすことはできないと



武蔵村山さいとうクリニックの外観



受付



癒しの水槽が置かれている待合室



キッズコーナー



待合室

語る。その医師としての覚悟を人生の成長になぞらえ、「人生において学びによる成長、ラーニングカーブが平坦になってしまっはいけない。人は死ぬまで勉強しつづければいけないし、勉強していけば最後まで成長するものです。そして地域の人々が私にそれを求めている以上、私は勉強を続けていかなければならないと思っています」

人の命を預かる崇高な仕事についた者としてすべては患者さんのために

齊藤先生は、毎日朝7時30分には出勤し、夜中の12時頃まで勉強会や会合、クリニックの会議など何らかの活動に励む。同クリニックでは在宅診療も行っている。「患者さんを看取することも当然あります。人生最期の瞬間を任せられるというのは、とても責任の重いことです。その期待に

応えていかなければならないのです」と24時間オンコールの状態、旅行も控え、すぐ患者さんの元へ駆け付けられる態勢を整えている。さらに「自分が交通事故に遭い、診療できなくなるリスクを減らすために自身で車を運転することも止めました」というほど医師としての責任に向き合っている。それが医師の役割だと話す。

「すべては人の命を預かる医師という崇高な仕事に就いた者の役割だと思っていますし、患者さんから自分の力を求められている以上、それに応えていくことは当然だと思っています」

医療・介護・教育の専門家を集めて勉強会を開催

「患者さんの期待に応えるために、様々な勉強会などを